

# 令和3年度・内航タンカー船員実態調査報告書

令和4年4月14日

全国内航タンカー海運組合

船員対策委員会

— 目 次 —

はじめに	…	1
1. 回答状況	…	2
2. 年齢構成（乗・下船中の分類）	…	4
3. 年齢別船員数及び割合の推移（10年間）	…	5
4. 総トン数・船種別平均年齢（乗船中船員）	…	6
5. 職種別平均年齢（乗・下船船員の合計）	…	9
6. 入社歴及び前職	…	10
7. 採用・退職関係	…	13
8. 海技免状保有状況	…	16
9. 船舶料理士保有状況	…	16
10. 船員不足の考察	…	17
11. 船員対策委員会からの提言	…	18

はじめに

全国内航タンカー海運組合では、船員の高齢化に伴い、若年船員の確保、船員不足への対応、関係者の理解促進に役立てることを目的に、毎年10月1日現在における内航タンカーに乗船中の船員及び下船中船員の年齢構成、採用・退職状況等を調査しています。(平成17年に調査開始)

令和3年度も、運送事業者(オペレーター)を経由して船主(オーナー)に調査票の提出ご協力をお願いしました。今年度も回収率を上げるべく、対象事業者船員担当者様の協力を得て提出をお願いしましたが、本年度もコロナ禍において各社及び事務局の在宅勤務体制が通年に亘ったことも影響し、回収率は72.7%(対象1,043隻の内、758隻の回答)と、昨年並みの回答に止まりました。(前年72.8%)

回収率の内訳をみると、船型では200G/T未満の小型船(回収率45.1%)、船種では特タン船(回収率56.3%)の回収率が低いという、例年同様の傾向となり、回収率を上げていくことは課題ではありますが、コロナ禍という特殊要因の中でも7割以上の回収率を確保し、概ね実態が反映される水準は保たれたものと思われま

す。今回の調査から推計される船員総数は、9,467名(前年度9,248名)で前年比219名増となりました。これは、予備員率が増えたこと(1.37→1.42)、新卒採用が引き続き好調なこと(311→318名)、定年退職者の絶対数が減ったこと(87→78名)、などが直接的な原因ではありますが、若年船員を船内で育てていこうという良い傾向は継続されているものと思われま

す。また、今回の調査による船員の平均年齢は45.8才(前年度46.8才)で、平均年齢が1歳下がりました。これは、各社の新卒者の採用増に伴う若年世代割合が増加(30才未満割合10年で8.5%増加)したことで、高齢世代割合が減少(55歳以上割合10年で6.3%減少)したことが一因ですが、この傾向とは別に、若年層の早期退職者の増加や70歳以上の高齢船員への依存割合が高まっていることも統計から伺い知れ、今後も注視が必要です。

また、このほかにも本報告書では、組合員各社からの貴重な実態を集計した上で、数多くの統計的データとしてまとめておりますので、是非、各社・グループの船員対策等にご活用下さい。

長年にわたり内航タンカー業界を支えて来た団塊世代の船員が退職し、中堅世代を他業種から採用することが難しい現状においては、若手船員を採用し育成していかなければならないことは明白であります。このためには、令和4年4月から実施される「内航船員の働き方改革」に関連する法改正に対して、組合員各社がコンプライアンスを前提にした取り組みが可能となるよう、業界団体としてサポートを行い、荷主や行政への理解、協力につなげていきたいと思っております。

最後になりますが、本調査にご協力をいただきました、運送事業者、船主の船員担当者の方々に改めて厚くお礼を申し上げますと共に、今後ともご協力下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

全国内航タンカー海運組合  
船員対策委員会  
委員長 内藤 吉起

## 1. 回答状況

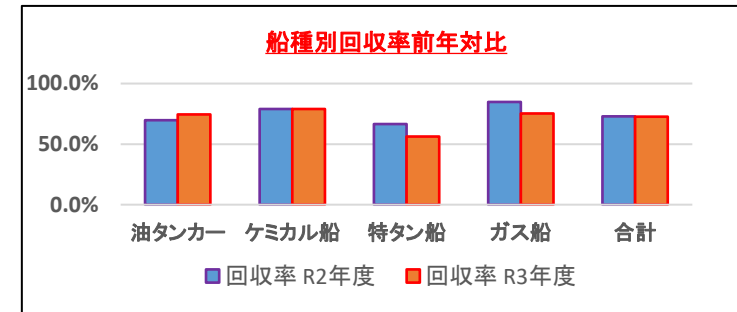
(1)対象隻数 : 1,043隻 (2)回答隻数 : 758隻 (回収率:72.7%)

※調査票の回収方法は、内航総連合会の「構造改善対策賦課金」の徴収対象船舶リストにより、運送事業者に船主分の調査票の配布回収を依頼し実施。

※回収率72.7%の内訳は下段表のとおり。(本年度は、特タン船、小型船の事業者からの提出割合が低い)

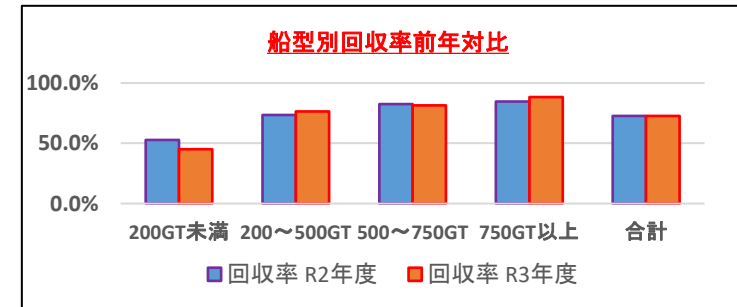
## (3)船種別回答内訳

	調査対象隻数		回答隻数		回収率	
	R2年度	R3年度	R2年度	R3年度	R2年度	R3年度
油タンカー	579	573	404	427	69.8%	74.5%
ケミカル船	191	190	151	150	79.1%	78.9%
特タン船	149	158	99	89	66.4%	56.3%
ガス船	125	122	106	92	84.8%	75.4%
合計	1,044	1,043	760	758	72.8%	72.7%



## (4)船型別回答内訳

	調査対象隻数		回答隻数		回収率	
	R2年度	R3年度	R2年度	R3年度	R2年度	R3年度
200GT未満	256	253	135	114	52.7%	45.1%
200～500GT	343	348	252	266	73.5%	76.4%
500～750GT	182	183	150	149	82.4%	81.4%
750GT以上	263	259	223	229	84.8%	88.4%
合計	1,044	1,043	760	758	72.8%	72.7%



## (5)回答船員数

( )は前年度船員数を示す。

合計(乗船中・下船中)7,451名(7,155名) ①乗船中の船員数5,264名(5,221名) ②下船中の船員数2,187名(1,934名)

## (6)内航タンカー船員の総計(推計)

上記船員数に各船種、船型別の回収率から算出した推計船員数と予備員率を乗じた内航タンカー全船での船員数は以下の通り推計される。

合計(乗船中・下船中)9,467名(9,248名) ①乗船中の船員数6,688名(6,748名) ②下船中の船員数2,500名(2,779名)

※ 前年度より推計船員数が219名多いのは、予備員率の増加(1.37→1.42)が大きな要因となっている。

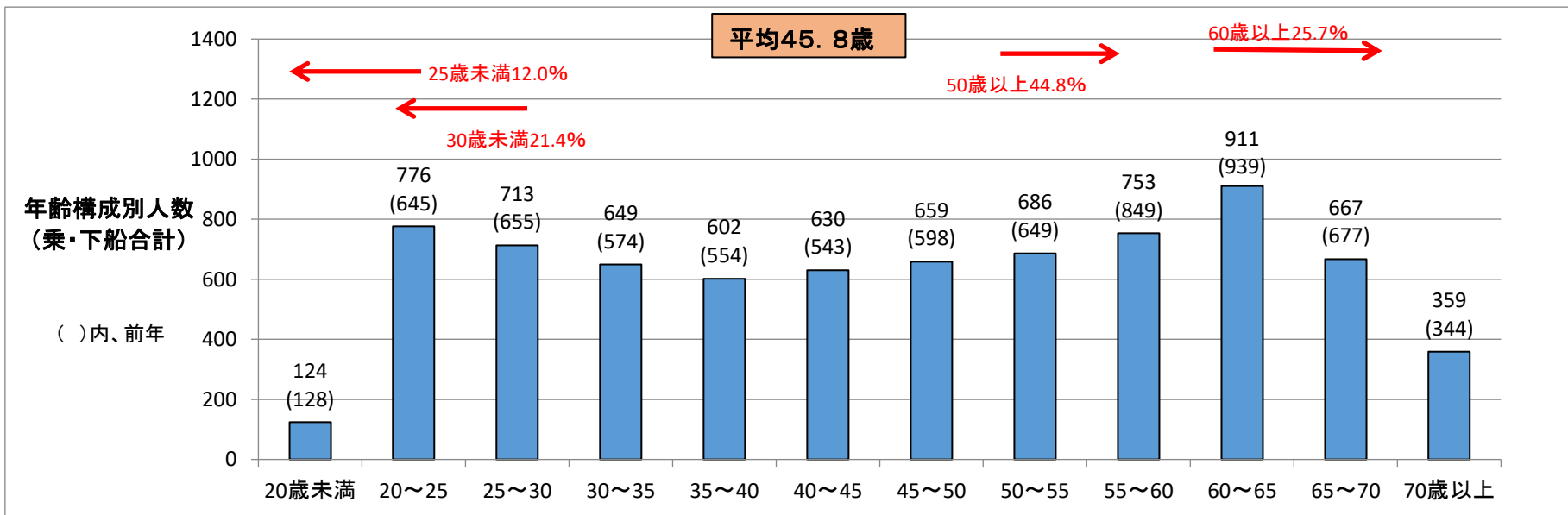
## ◎ 回答状況(詳細)

乗船中船員の集計	船種	船型区分 G/T	対象隻数 ①	回答隻数 ②	回収率 ③(②/①)	回答船員数 ④	平均乗員数 ④/②	推計船員数 ⑤(④/③)
	油タンカー	200未満	198	92	46.5%	313	3.4	674
		～500未満	118	99	83.9%	501	5.1	597
		～750未満	58	51	87.9%	360	7.1	409
		～1000未満	46	40	87.0%	349	8.7	401
		～1600未満	6	3	50.0%	21	7.0	42
		～3000未満	27	26	96.3%	278	10.7	289
		3000以上	120	116	96.7%	1,364	11.8	1,411
	小計	573	427	74.5%	3,186	7.5	3,823	
	ケミカル船	200未満	4	2	50.0%	5	2.5	10
～500未満		144	115	79.9%	634	5.5	794	
～750未満		36	28	77.8%	175	6.3	225	
～1000未満		0	0	0.0%	0	0.0	0	
～1600未満		4	3	75.0%	32	10.7	43	
～3000未満		1	1	100.0%	9	9.0	9	
3000以上		1	1	100.0%	14	14.0	14	
小計	190	150	78.9%	869	5.8	1,095		
特ダ船	200未満	51	20	39.2%	76	3.8	194	
	～500未満	77	45	58.4%	227	5.0	388	
	～750未満	26	20	76.9%	130	6.5	169	
	～1000未満	3	3	100.0%	26	8.7	26	
	～1600未満	1	1	100.0%	10	10.0	10	
	～3000未満	0	0	0.0%	0	0.0	0	
	3000以上	0	0	0.0%	0	0.0	0	
小計	158	89	56.3%	469	5.3	787		
ガス船	200未満	0	0	0.0%	0	0.0	0	
	～500未満	9	7	77.8%	41	5.9	53	
	～750未満	63	50	79.4%	343	6.9	432	
	～1000未満	28	16	57.1%	148	9.3	259	
	～1600未満	10	8	80.0%	80	10.0	100	
	～3000未満	7	7	100.0%	82	11.7	82	
	3000以上	5	4	80.0%	46	11.5	58	
小計	122	92	75.4%	740	8.0	983		
合計	200未満	253	114	45.1%	394	3.5	877	
	～500未満	348	266	76.4%	1,403	5.3	1,832	
	～750未満	183	149	81.4%	1,008	6.8	1,236	
	～1000未満	77	59	76.6%	523	8.9	686	
	～1600未満	21	15	71.4%	143	9.5	195	
	～3000未満	35	34	97.1%	369	10.9	380	
	3000以上	126	121	96.0%	1,424	11.8	1,483	
	合計	1,043	758	72.7%	5,264	6.9	6,688	
下船中船員の集計					回答船員数 ⑥	予備員率 ⑦(⑥/④+1)	推計予備員数 ⑧(⑤×⑦-⑤)	
					2,187	1.42	2,779	
総合計 (⑤+⑧)				回答数計	7,451	推計船員数	9,467	

## 2. 年齢構成(乗・下船中の分類)

## (1) 年齢区分別人数

		20歳未満	20～25	25～30	30～35	35～40	40～45	45～50	50～55	55～60	60～65	65～70	70歳以上	計
乗船中	人数	81	554	489	446	440	456	454	476	538	639	442	232	5,247
	年齢計	1,516	12,167	13,200	14,197	16,258	19,166	21,365	24,883	30,753	39,577	29,501	16,766	239,349
	平均年齢	18.7	22.0	27.0	31.8	37.0	42.0	47.1	52.3	57.2	61.9	66.7	72.3	45.6
	比率	1.5%	10.6%	9.3%	8.5%	8.4%	8.7%	8.7%	9.1%	10.3%	12.2%	8.4%	4.4%	100%
下船中	人数	43	222	224	203	162	174	205	210	215	272	225	127	2,282
	年齢計	808	4,874	6,036	6,452	5,957	7,320	9,652	10,947	12,252	16,858	15,034	9,204	105,394
	平均年齢	18.8	22.0	26.9	31.8	36.8	42.1	47.1	52.1	57.0	62.0	66.8	72.5	46.2
	比率	1.9%	9.7%	9.8%	8.9%	7.1%	7.6%	9.0%	9.2%	9.4%	11.9%	9.9%	5.6%	100%
合計	人数	124	776	713	649	602	630	659	686	753	911	667	359	7,529
	年齢計	2,324	17,041	19,236	20,649	22,215	26,486	31,017	35,830	43,005	56,435	44,535	25,970	344,743
	平均年齢	18.7	22.0	27.0	31.8	36.9	42.0	47.1	52.2	57.1	61.9	66.8	72.3	45.8
	比率	1.6%	10.3%	9.5%	8.6%	8.0%	8.4%	8.8%	9.1%	10.0%	12.1%	8.9%	4.8%	100%
女性船員(上記の内数)	1	18	14	2	1	0	3	1	2	0	0	0	42	前年比±0名、平均年齢28.4歳、甲板職員15名(内、船長1名、一航3名)、甲板部員13名、機関職員7名(内、一機2名)、機関部員5名、司厨員2名
派遣船員(上記の内数)	3	22	30	14	21	32	20	39	34	50	53	34	352	前年比22名減、平均年齢54.8歳、甲板職員144名、甲板部員75名、機関職員87名、機関部員20名、司厨員38名



① 全船種平均年齢(乗・下船合計)は45.8歳(前年度46.8歳)で、1歳若返り。

② 要因として、30歳未満の若年船員がここ数年各社の積極的な新卒採用により増加し、60歳以上船員の占める割合も僅かに減少している。

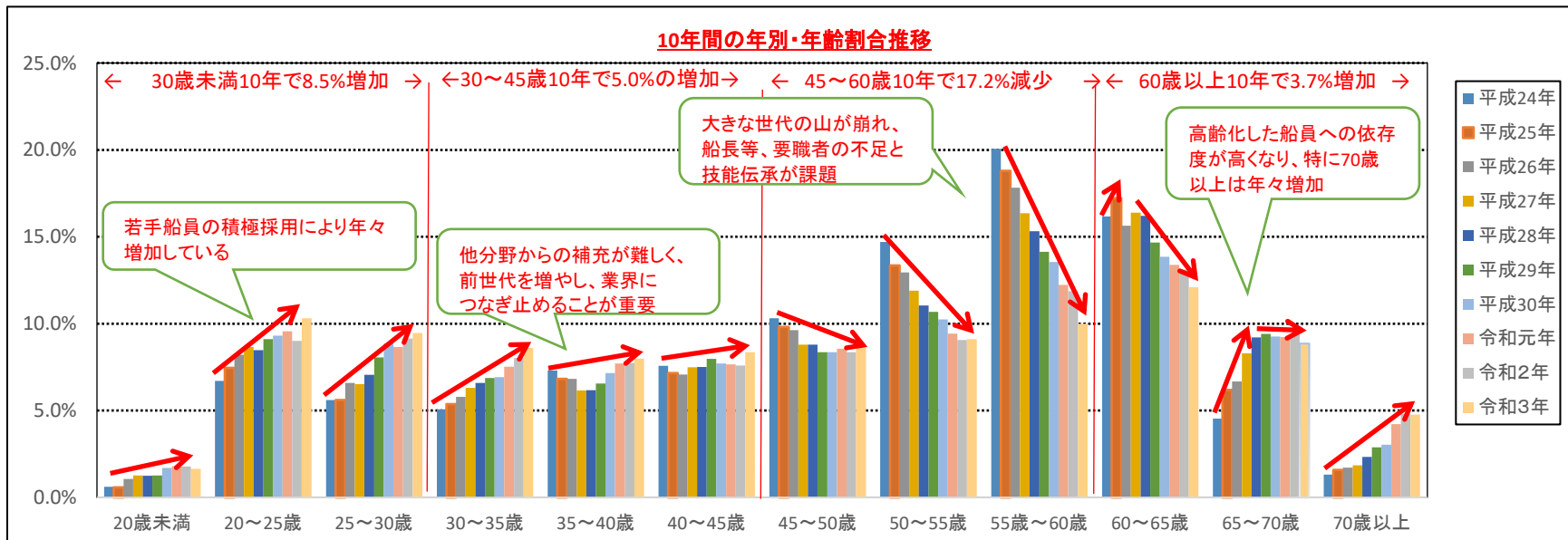
### 3. 年齢別船員数及び割合の推移(10年間)

#### (1) 年齢別船員数

	20歳未満	20～25歳	25～30歳	30～35歳	35～40歳	40～45歳	45～50歳	50～55歳	55歳～60歳	60～65歳	65～70歳	70歳以上	報告船員数
平成24年	42	453	379	342	493	512	696	992	1,354	1,092	306	89	6,750
平成25年	39	495	372	356	453	475	651	885	1,246	1,142	410	105	6,629
平成26年	75	575	462	405	478	495	674	906	1,247	1,095	467	120	6,999
平成27年	85	578	436	421	411	500	587	795	1,092	1,095	554	124	6,678
平成28年	95	643	535	500	468	570	667	837	1,161	1,229	699	177	7,581
平成29年	96	686	606	517	493	600	629	803	1,063	1,103	708	217	7,521
平成30年	127	693	660	516	533	574	623	763	1,009	1,031	689	226	7,444
令和元年	135	719	651	566	580	576	644	709	919	1,006	694	317	7,516
令和2年	128	645	655	574	554	543	598	649	849	939	677	344	7,155
令和3年	124	776	713	649	602	630	659	686	753	911	667	359	7,529
合計	946	6,263	5,469	4,846	5,065	5,475	6,428	8,025	10,693	10,643	5,871	2,078	71,802

#### (2) 年齢別船員割合

	20歳未満	20～25歳	25～30歳	30～35歳	35～40歳	40～45歳	45～50歳	50～55歳	55歳～60歳	60～65歳	65～70歳	70歳以上	合計
平成24年	0.6%	6.7%	5.6%	5.1%	7.3%	7.6%	10.3%	14.7%	20.1%	16.2%	4.5%	1.3%	100.0%
平成25年	0.6%	7.5%	5.6%	5.4%	6.8%	7.2%	9.8%	13.4%	18.8%	17.2%	6.2%	1.6%	100.0%
平成26年	1.1%	8.2%	6.6%	5.8%	6.8%	7.1%	9.6%	12.9%	17.8%	15.6%	6.7%	1.7%	100.0%
平成27年	1.3%	8.7%	6.5%	6.3%	6.2%	7.5%	8.8%	11.9%	16.4%	16.4%	8.3%	1.9%	100.0%
平成28年	1.3%	8.5%	7.1%	6.6%	6.2%	7.5%	8.8%	11.0%	15.3%	16.2%	9.2%	2.3%	100.0%
平成29年	1.3%	9.1%	8.1%	6.9%	6.6%	8.0%	8.4%	10.7%	14.1%	14.7%	9.4%	2.9%	100.0%
平成30年	1.7%	9.3%	8.9%	6.9%	7.2%	7.7%	8.4%	10.2%	13.6%	13.9%	9.3%	3.0%	100.0%
令和元年	1.8%	9.6%	8.7%	7.5%	7.7%	7.7%	8.6%	9.4%	12.2%	13.4%	9.2%	4.2%	100.0%
令和2年	1.8%	9.0%	9.2%	8.0%	7.7%	7.6%	8.4%	9.1%	11.9%	13.1%	9.5%	4.8%	100.0%
令和3年	1.6%	10.3%	9.5%	8.6%	8.0%	8.4%	8.8%	9.1%	10.0%	12.1%	8.9%	4.8%	100.0%



## 4. 総トン数・船種別平均年齢(乗船中船員)

## (1) 総トン数別平均年齢

	3年度				29年度 平均年齢	30年度 平均年齢	元年度 平均年齢	2年度 平均年齢	3年度 平均年齢
	隻数	船員数	平均乗員	年齢計					
200未満	114	394	3.5	19,408	51.8	50.5	50.1	49.9	49.3
500未満	266	1,403	5.3	67,688	51.1	50.0	49.6	49.3	48.2
750未満	149	1,008	6.8	48,862	49.5	49.1	48.8	49.9	48.5
1000未満	59	523	8.9	23,572	47.6	47.3	45.9	46.0	45.1
1600未満	15	143	9.5	5,645	44.1	44.1	41.7	40.8	39.5
3000未満	34	369	10.9	15,671	43.6	42.0	42.5	44.1	42.5
3000以上	121	1,424	11.8	58,503	42.5	41.9	42.2	41.7	41.1
合計	758	5,264	6.9	239,349	48.1	47.6	46.6	46.6	45.5

・本年度乗船中の平均年齢は一歳若返り45.5歳であったが、船型別にみると、200GT未満船の49.3歳に対して、3,000GT以上船は41.1歳であり、小型船／大型船での平均年齢差約8歳は昨年と同じ傾向。

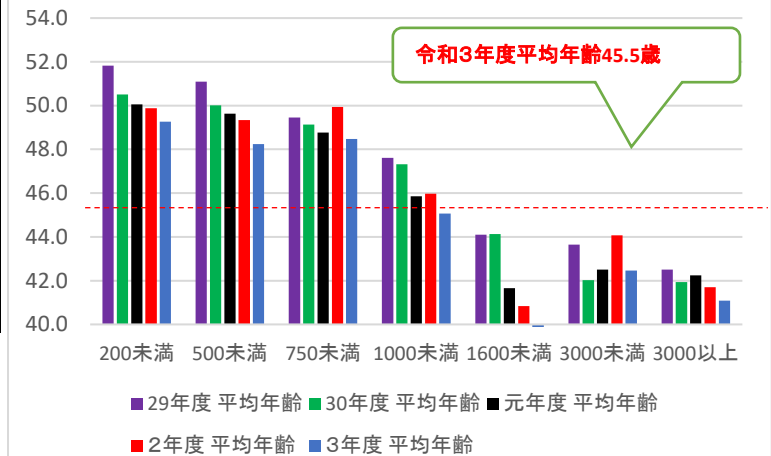
## (2) 船種別平均年齢(乗船中)

	3年度				29年度 平均年齢	30年度 平均年齢	元年度 平均年齢	2年度 平均年齢	3年度 平均年齢
	隻数	船員数	平均乗員	年齢計					
油タンカー	427	3,186	7.5	142,774	46.4	45.8	45.6	45.4	44.8
ケミカル船	150	869	5.8	40,915	50.3	49.5	48.3	48.4	47.1
特タン船	89	469	5.3	22,593	51.2	50.2	50.2	49.3	48.2
ガス船	92	740	8.0	33,067	48.1	47.0	46.4	47.1	44.7
合計	758	5,264	6.9	239,349	48.1	47.6	46.6	46.6	45.5

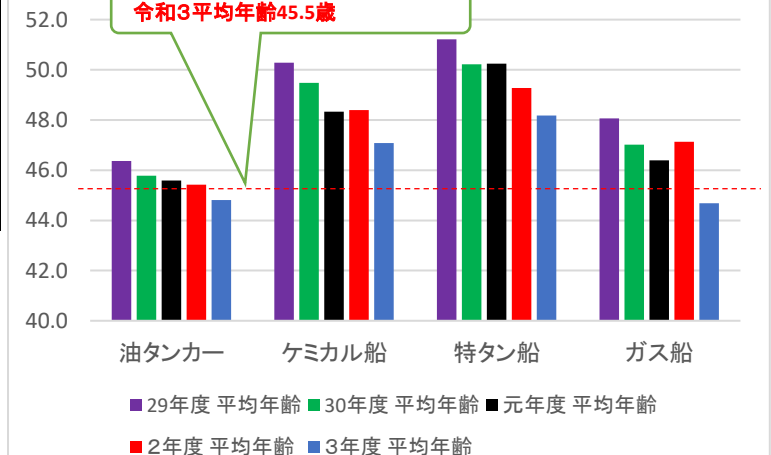
・令和3年度で平均年齢を下回るのは油タンカー(44.8歳)のみ。

・全体的に少しずつ若返っている傾向。

総トン数別平均年齢(5年間統計)(乗船中船員)



船種別平均年齢(5年間統計)(乗船中船員)





(年齢構成:船種別詳細①)

		20歳未満	20～25	25～30	30～35	35～40	40～45	45～50	50～55	55～60	60～65	65～70	70以上	計
白	200未満	1	5	11	5	4	6	8	14	13	13	14	7	101
	～500未満	1	5	11	16	10	16	19	17	19	24	28	9	175
	～750未満	2	13	25	21	27	27	21	33	25	41	39	17	291
	～1000未満	1	20	22	24	14	19	16	14	17	21	14	8	190
	～1600未満	0	4	4	3	1	2	4	0	1	1	1	0	21
	～3000未満	7	38	23	21	20	19	19	18	29	28	22	5	249
	3000以上	26	169	120	84	81	75	72	79	97	87	55	21	966
	人数	38	254	216	174	157	164	159	175	201	215	173	67	1,993
	年齢計	715	5,549	5,835	5,530	5,787	6,885	7,495	9,125	11,494	13,295	11,558	4,807	88,075
平均	18.8	21.8	27.0	31.8	36.9	42.0	47.1	52.1	57.2	61.8	66.8	71.7	44.2	
黒	200未満	4	10	15	23	17	17	28	27	21	13	14	23	212
	～500未満	0	17	30	25	32	28	35	39	34	39	27	20	326
	～750未満	0	5	4	4	6	10	4	5	6	11	9	5	69
	～1000未満	3	2	15	13	16	19	16	10	16	21	17	11	159
	～1600未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	～3000未満	1	3	1	0	2	2	3	2	4	4	6	0	28
	3000以上	7	66	43	38	32	30	27	32	36	45	25	7	388
	人数	15	103	108	103	105	106	113	115	117	133	98	66	1,182
	年齢計	283	2,286	2,893	3,288	3,891	4,462	5,292	6,016	6,681	8,261	6,540	4,806	54,699
平均	18.9	22.2	26.8	31.9	37.1	42.1	46.8	52.3	57.1	62.1	66.7	72.8	46.3	
ケミカル	200未満	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	2	5
	～500未満	8	41	46	49	60	67	49	64	58	99	55	33	629
	～750未満	3	15	8	14	14	17	13	17	24	25	15	10	175
	～1000未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	～1600未満	2	4	6	2	3	4	4	3	1	2	1	0	32
	～3000未満	1	2	1	0	0	3	0	0	1	0	1	0	9
	3000以上	0	1	3	3	3	0	0	2	1	0	1	0	14
	人数	14	63	64	68	80	91	68	86	85	127	73	45	864
	年齢計	259	1,394	1,737	2,172	2,969	3,827	3,189	4,511	4,861	7,874	4,877	3,245	40,915
平均	18.5	22.1	27.1	31.9	37.1	42.1	46.9	52.5	57.2	62.0	66.8	72.1	47.4	

(年齢構成:船種別詳細②)

		20歳未満	20～25	25～30	30～35	35～40	40～45	45～50	50～55	55～60	60～65	65～70	70以上	計
特タン	200未満	0	8	3	2	4	6	9	6	9	14	9	6	76
	～500未満	1	17	17	18	12	26	29	17	21	28	26	15	227
	～750未満	0	5	9	17	12	11	9	11	16	30	6	4	130
	～1000未満	0	6	2	2	1	4	4	3	3	0	1	0	26
	～1600未満	0	4	0	0	1	0	0	0	1	1	3	0	10
	～3000未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3000以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	人数	1	40	31	39	30	47	51	37	50	73	45	25	469
	年齢計	18	885	837	1,244	1,115	1,967	2,411	1,936	2,851	4,514	2,997	1,818	22,593
	平均	18.0	22.1	27.0	31.9	37.2	41.9	47.3	52.3	57.0	61.8	66.6	72.7	48.2
ガス	200未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	～500未満	0	0	3	2	2	4	7	3	9	6	3	2	41
	～750未満	5	23	28	25	28	21	36	33	44	51	32	16	342
	～1000未満	6	23	12	12	18	11	11	11	12	14	11	7	148
	～1600未満	0	22	6	8	9	5	0	6	10	9	4	1	80
	～3000未満	1	19	14	9	7	4	7	7	2	7	2	3	82
	3000以上	1	7	7	6	4	3	2	3	8	4	1	0	46
	人数	13	94	70	62	68	48	63	63	85	91	53	29	739
	年齢計	241	2,053	1,898	1,963	2,496	2,025	2,978	3,295	4,866	5,633	3,529	2,090	33,067
	平均	18.5	21.8	27.1	31.7	36.7	42.2	47.3	52.3	57.2	61.9	66.6	72.1	44.7
合計	200未満	5	23	29	30	25	29	47	47	43	41	37	38	394
	～500未満	10	80	107	110	116	141	139	140	141	196	139	79	1,398
	～750未満	10	61	74	81	87	86	83	99	115	158	101	52	1,007
	～1000未満	10	51	51	51	49	53	47	38	48	56	43	26	523
	～1600未満	2	34	16	13	14	11	8	9	13	13	9	1	143
	～3000未満	10	62	39	30	29	28	29	27	36	39	31	8	368
	3000以上	34	243	173	131	120	108	101	116	142	136	82	28	1,414
	人数	81	554	489	446	440	456	454	476	538	639	442	232	5,247
	年齢計	1,516	12,167	13,200	14,197	16,258	19,166	21,365	24,883	30,753	39,577	29,501	16,766	239,349
	平均	18.7	22.0	27.0	31.8	37.0	42.0	47.1	52.3	57.2	61.9	66.7	72.3	45.6

5. 職種別平均年齢(乗・下船船員の合計)

(1) 職種別

職種	船員数	年齢計	平均年齢
船長	1,079	59,486	55.1
一航士	936	42,968	45.9
次席一航士	232	9,955	42.9
二航士	778	34,783	44.7
三航士	285	9,730	34.1
小計	3,310	156,922	47.4
甲板長	239	12,604	52.7
甲板手	502	18,691	37.2
甲板員	524	17,671	33.7
見習い	30	845	28.2
司厨員	485	25,480	52.5
小計	1,780	75,291	42.3
機関長	1,032	55,329	53.6
一機士	706	31,840	45.1
次席一機士	51	2,262	44.4
二機士	241	8,461	35.1
三機士	22	540	24.5
小計	2,052	98,432	48.0
操機長	22	1,021	46.4
操機手	43	1,135	26.4
機関員	236	7,343	31.1
見習い	8	216	27.0
小計	309	9,715	31.4
合計	7,451	340,360	45.7

(職種別平均年齢の前年対比)

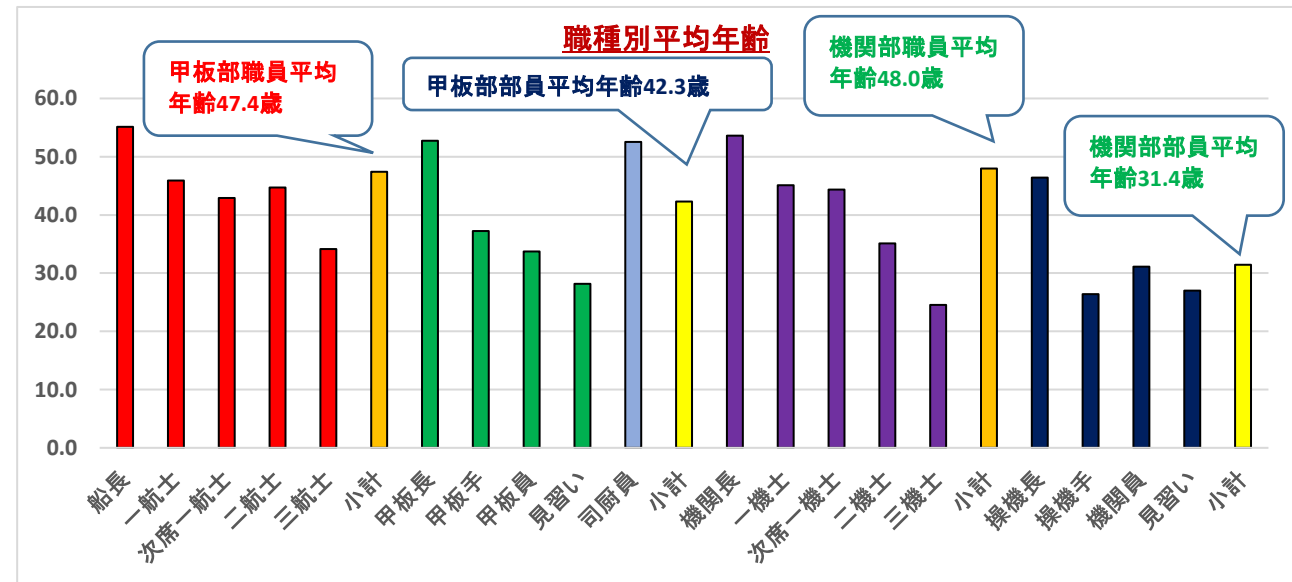
職種	R3年度	R2年度	対比
甲板部職員	47.4	48.6	-1.2
部員	42.3	43.4	-1.1
機関部職員	48.0	48.7	-0.7
部員	31.4	32.5	-1.1

(2) 航海/機関別

(註)本表中、司厨員は甲板部員に参入

R3年度		船員数	年齢計	平均年齢
甲板部	職員	3,310	156,922	47.4
	部員	1,780	75,291	42.3
	小計	5,090	232,213	45.6
機関部	職員	2,052	98,432	48.0
	部員	309	9,715	31.4
	小計	2,361	108,147	45.8
合計		7,451	340,360	45.7

R2年度(参考)		船員数	年齢計	平均年齢
甲板部	職員	3,181	154,685	48.6
	部員	1,628	70,619	43.4
	小計	4,809	225,304	46.9
機関部	職員	2,032	99,049	48.7
	部員	314	10,216	32.5
	小計	2,346	109,265	46.6
合計		7,155	334,569	46.8



・令和3年度の職種毎の平均年齢は上表のとおりである。

・前年度平均年齢と比較すると、甲板部職員は△1.2歳、甲板部部員は△1.1歳、機関部職員は△0.7歳、機関部部員は+1.1歳。

6. 入社歴及び前職

(1) 職種別船員数及び入社歴と雇用内訳(乗・下船合計)

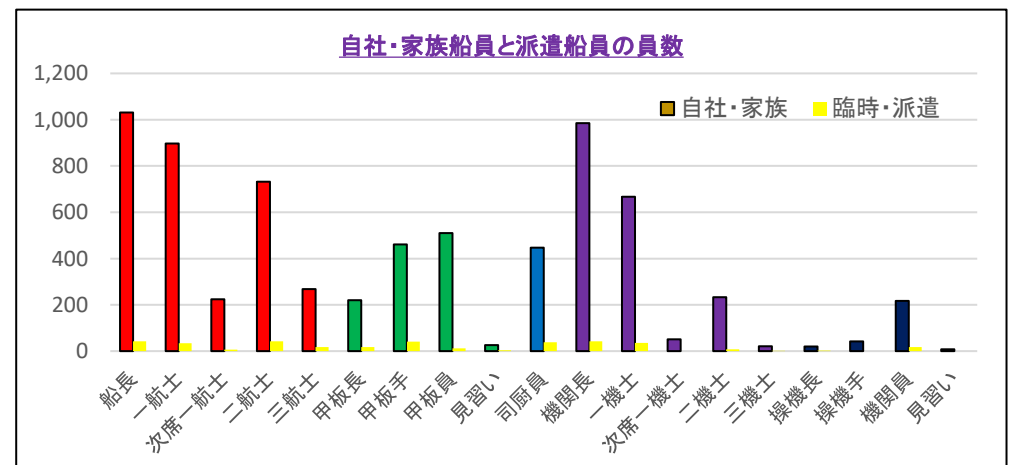
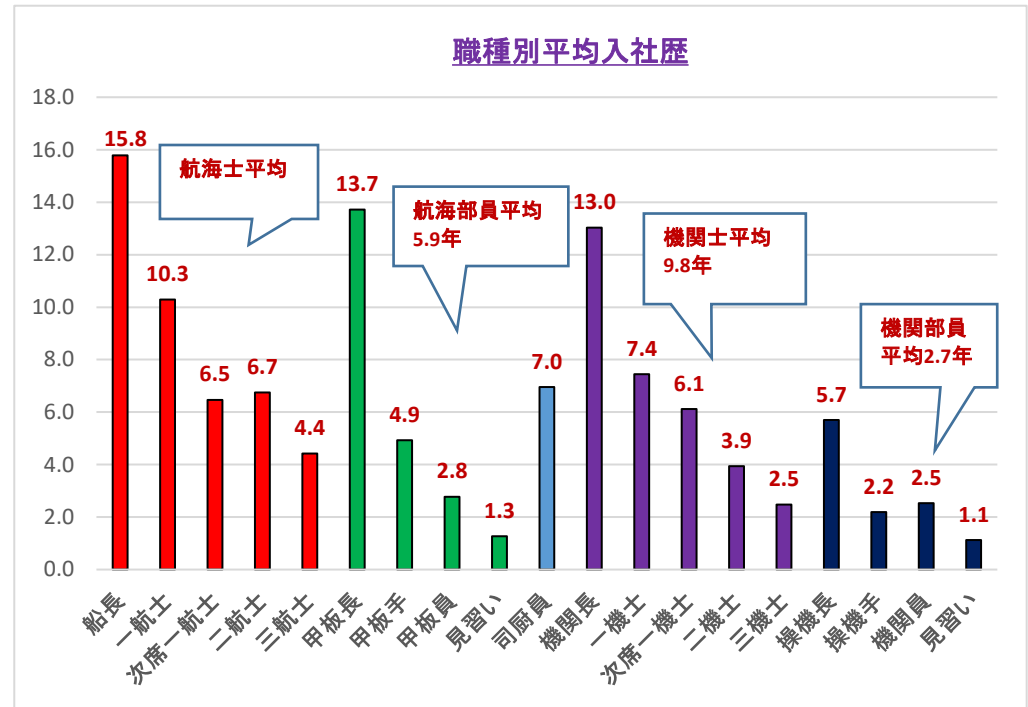
	船員数	内訳 (*1)			平均入社歴
		自社・家族	臨時・派遣	入社歴計	
船長	1,079	1,031	43	16,274	15.8
一航士	936	897	34	9,230	10.3
次席一航士	232	224	7	1,448	6.5
二航士	778	732	43	4,940	6.7
三航士	285	268	17	1,185	4.4
<b>小計</b>	<b>3,310</b>	<b>3,152</b>	<b>144</b>	<b>33,077</b>	<b>10.5</b>
甲板長	239	220	18	3,018	13.7
甲板手	502	461	41	2,272	4.9
甲板員	524	510	12	1,414	2.8
見習い	30	26	4	33	1.3
司厨員	485	447	38	3,110	7.0
<b>小計</b>	<b>1,780</b>	<b>1,664</b>	<b>113</b>	<b>9,847</b>	<b>5.9</b>
機関長	1,032	985	42	12,835	13.0
一機士	706	667	36	4,966	7.4
次席一機士	51	51	0	312	6.1
二機士	241	233	8	918	3.9
三機士	22	21	1	52	2.5
<b>小計</b>	<b>2,052</b>	<b>1,957</b>	<b>87</b>	<b>19,083</b>	<b>9.8</b>
操機長	22	20	2	114	5.7
操機手	43	42	0	92	2.2
機関員	236	217	18	549	2.5
見習い	8	8	0	9	1.1
<b>小計</b>	<b>309</b>	<b>287</b>	<b>20</b>	<b>764</b>	<b>2.7</b>
<b>合計</b>	<b>7,451</b>	<b>7,060</b>	<b>364</b>	<b>62,771</b>	<b>8.9</b>

(\*2)

(\*1): 平均入社歴は自社・家族船員のみを対象とした。

(\*2): 内訳欄の数は、一部未記入(27名分)があったため合計数とは一致しない。

・自社・家族船員と臨時・派遣船員の比率は、**自社・家族95.1%**(前年度94.7%)、**臨時・派遣4.9%**(前年度5.3%)で、臨時・派遣船員割合は微減した。



## (2)職種別船員の前職(全船種合計)

職種	専門新卒	一般新卒	タンカー船	ケミカル船	ガス船	特タン	貨物船	外航船員	漁船	その他	未記入	計
船長	108	29	399	200	51	25	58	11	85	73	40	1,079
一航士	144	23	285	130	44	35	65	3	67	109	31	936
次席一航士	24	10	72	34	16	8	20	0	15	28	5	232
二航士	143	14	203	104	25	18	82	5	40	113	31	778
三航士	115	5	63	10	8	2	18	2	16	39	7	285
<b>小計</b>	<b>534</b>	<b>81</b>	<b>1,022</b>	<b>478</b>	<b>144</b>	<b>88</b>	<b>243</b>	<b>21</b>	<b>223</b>	<b>362</b>	<b>114</b>	<b>3,310</b>
<b>割合</b>	<b>16.1%</b>	<b>2.4%</b>	<b>30.9%</b>	<b>14.4%</b>	<b>4.4%</b>	<b>2.7%</b>	<b>7.3%</b>	<b>0.6%</b>	<b>6.7%</b>	<b>10.9%</b>	<b>3.4%</b>	<b>100%</b>
甲板長	28	9	65	21	11	5	15	1	26	46	12	239
甲板手	164	13	108	12	1	1	28	2	30	128	15	502
甲板員	134	28	64	7	10	2	16	6	36	209	12	524
見習い	16	1	0	0	0	0	0	0	1	8	4	30
司厨員	14	4	114	13	12	2	29	5	13	268	11	485
<b>小計</b>	<b>356</b>	<b>55</b>	<b>351</b>	<b>53</b>	<b>34</b>	<b>10</b>	<b>88</b>	<b>14</b>	<b>106</b>	<b>659</b>	<b>54</b>	<b>1,780</b>
<b>割合</b>	<b>20.0%</b>	<b>3.1%</b>	<b>19.7%</b>	<b>3.0%</b>	<b>1.9%</b>	<b>0.6%</b>	<b>4.9%</b>	<b>0.8%</b>	<b>6.0%</b>	<b>37.0%</b>	<b>3.0%</b>	<b>100.0%</b>
機関長	82	19	349	163	45	27	69	17	109	111	41	1,032
一機士	124	16	197	85	41	5	52	3	52	103	28	706
次席一機士	4	2	17	3	2	0	7	0	6	9	1	51
二機士	92	2	49	15	3	3	15	3	12	43	4	241
三機士	17	0	2	0	1	0	1	0	0	1	0	22
<b>小計</b>	<b>319</b>	<b>39</b>	<b>614</b>	<b>266</b>	<b>92</b>	<b>35</b>	<b>144</b>	<b>23</b>	<b>179</b>	<b>267</b>	<b>74</b>	<b>2,052</b>
<b>割合</b>	<b>15.5%</b>	<b>1.9%</b>	<b>29.9%</b>	<b>13.0%</b>	<b>4.5%</b>	<b>1.7%</b>	<b>7.0%</b>	<b>1.1%</b>	<b>8.7%</b>	<b>13.0%</b>	<b>27.7%</b>	<b>100%</b>
操機長	3	0	4	4	0	1	2	0	1	4	3	22
操機手	27	2	2	1	0	0	2	0	2	7	0	43
機関員	64	14	30	7	0	1	6	0	10	89	15	236
見習い	3	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0	8
<b>小計</b>	<b>97</b>	<b>18</b>	<b>36</b>	<b>12</b>	<b>0</b>	<b>2</b>	<b>10</b>	<b>0</b>	<b>13</b>	<b>103</b>	<b>18</b>	<b>309</b>
<b>総計</b>	<b>1,306</b>	<b>193</b>	<b>2,023</b>	<b>809</b>	<b>270</b>	<b>135</b>	<b>485</b>	<b>58</b>	<b>521</b>	<b>1,391</b>	<b>260</b>	<b>7,451</b>
<b>割合</b>	<b>17.5%</b>	<b>2.6%</b>	<b>27.2%</b>	<b>10.9%</b>	<b>3.6%</b>	<b>1.8%</b>	<b>6.5%</b>	<b>0.8%</b>	<b>7.0%</b>	<b>18.7%</b>	<b>3.5%</b>	<b>100%</b>

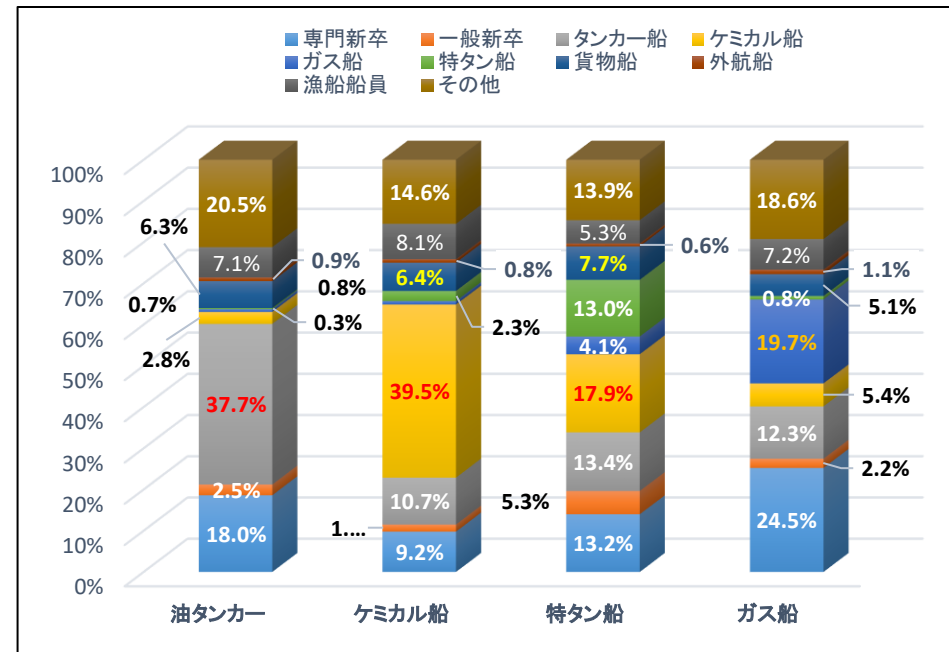
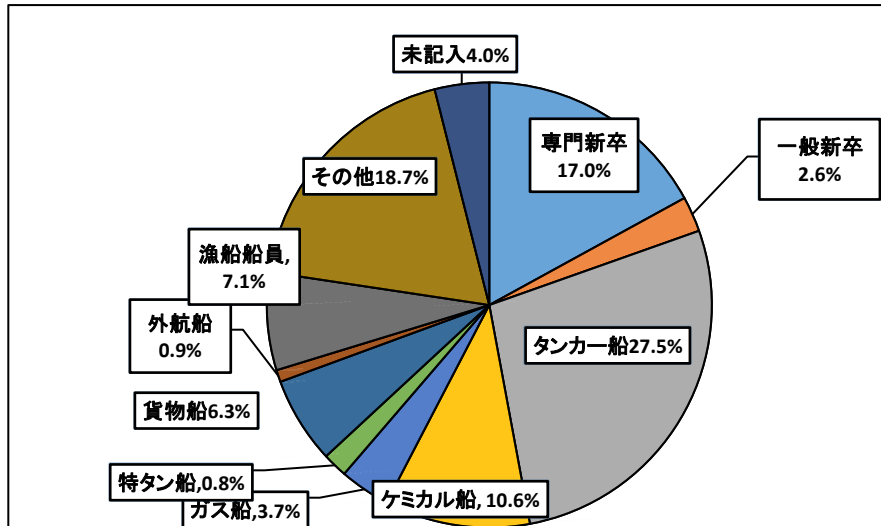
※前職は入社直前の職種を記載している。

※ 前職の上位は、タンカー経験者27.2%、その他18.7%、専門学校新卒者が17.5%、ケミカル船が10.9%、漁船が7.0%、貨物船が6.5%となっている。

(3) 船種別船員の前職(乗船中)

	専門新卒	一般新卒	タンカー船	ケミカル船	ガス船	特タン船	貨物船	外航船	漁船船員	その他	未記入	計
油タンカー	573	80	1,200	89	21	8	201	28	226	653	107	3,186
ケミカル船	80	14	93	343	7	20	56	7	70	127	52	869
特タン船	62	25	63	84	19	61	36	3	25	65	26	469
ガス船	181	16	91	40	146	6	38	8	53	138	23	740
合計	896	135	1,447	556	193	95	331	46	374	983	208	5,264
比率	17.0%	2.6%	27.5%	10.6%	3.7%	1.8%	6.3%	0.9%	7.1%	18.7%	4.0%	100%

	専門新卒	一般新卒	タンカー船	ケミカル船	ガス船	特タン船	貨物船	外航船	漁船船員	その他
油タンカー	18.0%	2.5%	37.7%	2.8%	0.7%	0.3%	6.3%	0.9%	7.1%	20.5%
ケミカル船	9.2%	1.6%	10.7%	39.5%	0.8%	2.3%	6.4%	0.8%	8.1%	14.6%
特タン船	13.2%	5.3%	13.4%	17.9%	4.1%	13.0%	7.7%	0.6%	5.3%	13.9%
ガス船	24.5%	2.2%	12.3%	5.4%	19.7%	0.8%	5.1%	1.1%	7.2%	18.6%



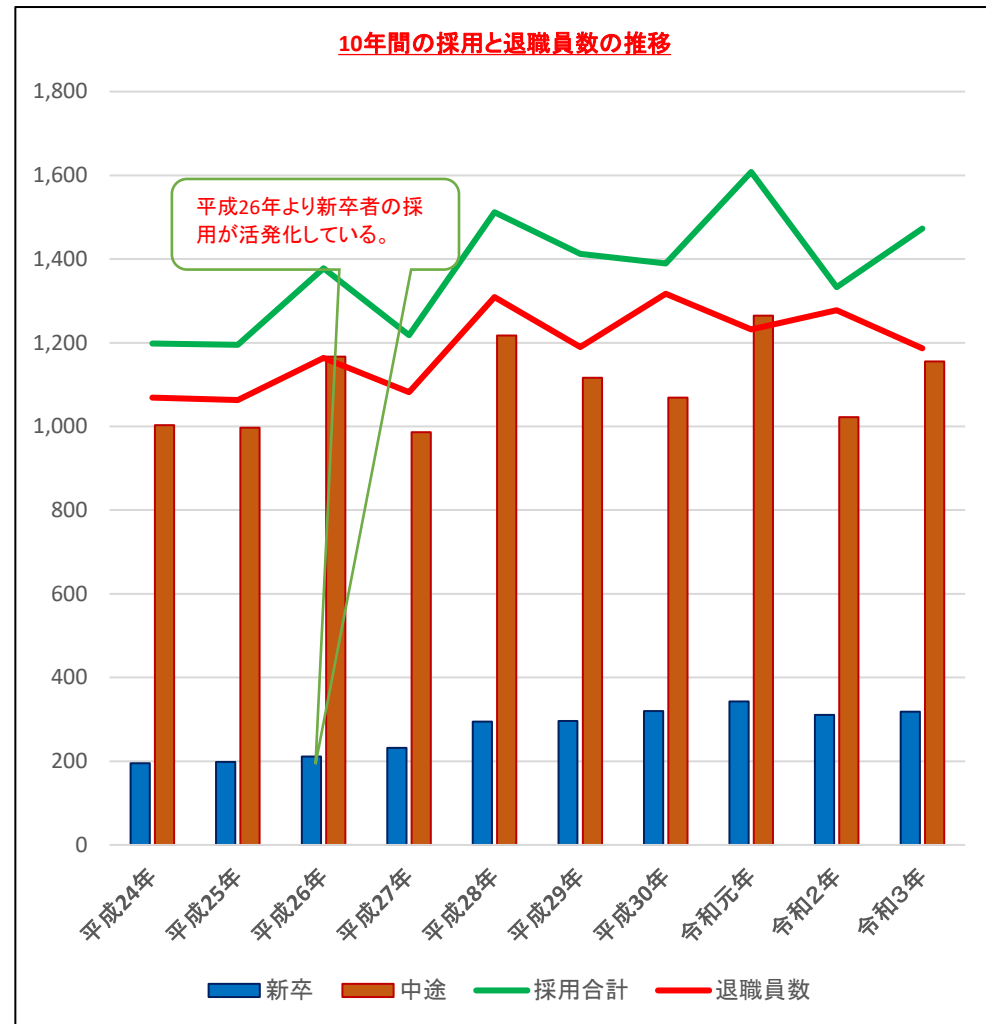
※油タンカー、ケミカル船は、同じ船種に戻る割合が高く、ガス船もやや低い傾向。

※特タン船は、ケミカル船からの転職者が、特タン船からの転職者を上回っている。

## 7. 採用・退職関係

## (1) 過去10年間の採用及び退職船員統計表

	新卒	中途	採用合計	退職員数	採用員数 - 退職員数
平成24年	195	1003	1,198	1,069	129
平成25年	198	997	1,195	1,063	132
平成26年	211	1167	1,378	1,164	214
平成27年	232	986	1,218	1,082	136
平成28年	295	1,217	1,512	1,309	203
平成29年	296	1,116	1,412	1,190	222
平成30年	320	1,069	1,389	1,317	72
令和元年	343	1,265	1,608	1,232	376
令和2年	311	1,022	1,333	1,278	55
令和3年	318	1,155	1,473	1,187	286
合計	2,719	10,997	13,716	11,891	1,825



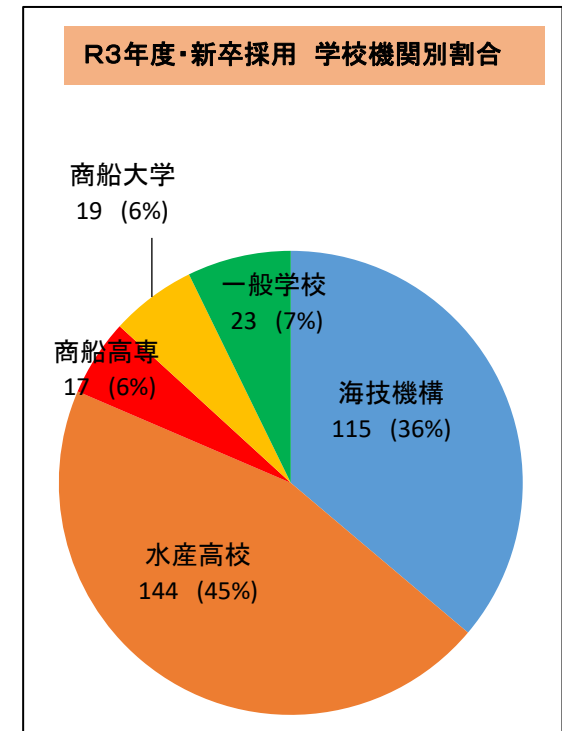
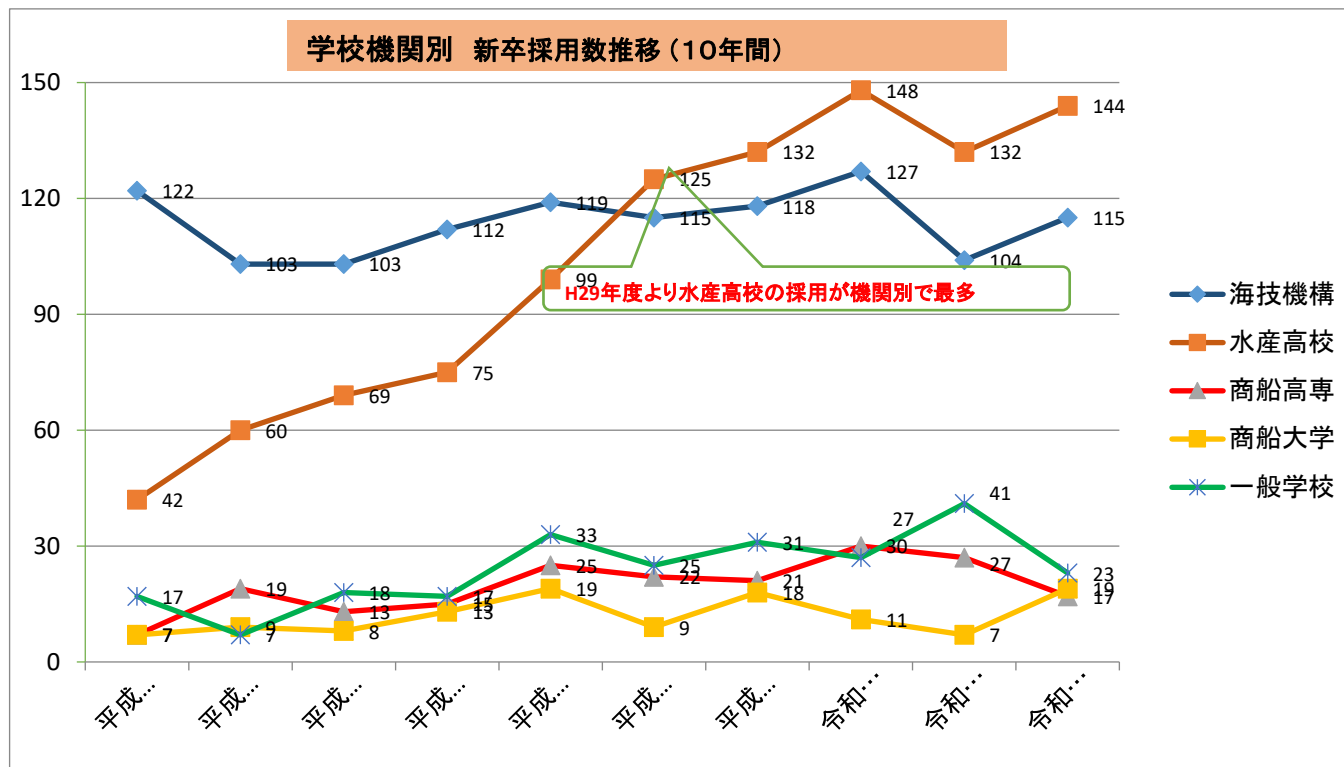
※採用人数13,716名の内、中途採用者は10,997名と全体の80.2%を占めている。

(2)新卒者採用学校別割合及び中途採用者内訳(10年間)

	新卒						中途			合計
	海技機構	水産高校	商船高専	商船大学	一般学校	小計	元船員	船員以外	小計	
平成24年	122	42	7	7	17	195	904	99	1,003	1,198
平成25年	103	60	19	9	7	198	897	100	997	1,195
平成26年	103	69	13	8	18	211	1,008	159	1,167	1,378
平成27年	112	75	15	13	17	232	830	156	986	1,218
平成28年	119	99	25	19	33	295	985	232	1,217	1,512
平成29年	115	125	22	9	25	296	884	232	1,116	1,412
平成30年	118	132	21	18	31	320	872	197	1,069	1,389
令和元年	127	148	30	11	27	343	1,024	241	1,265	1,608
令和2年	104	132	27	7	41	311	833	189	1,022	1,333
令和3年	115	144	17	19	23	318	931	224	1,155	1,473
合計	1,138	1,026	196	120	239	2,719	9,168	1,829	10,997	13,716
	41.9%	37.7%	7.2%	4.4%	8.8%	100.0%	83.4%	16.6%	100.0%	

(※1)教育機関別の新卒採用数は、10年間合計では、海技学校・短大が43.3%と最多だが、平成29年度より水産高校生の採用数が最多となった。

(※2)水産高校採用数132名の内訳  
専攻科41名、本科91名 (R2年)





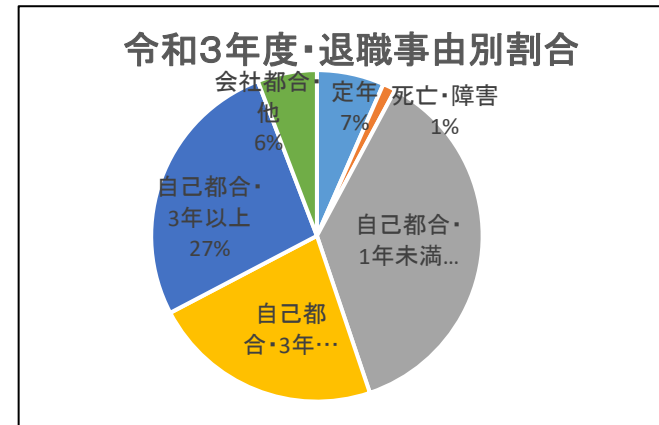
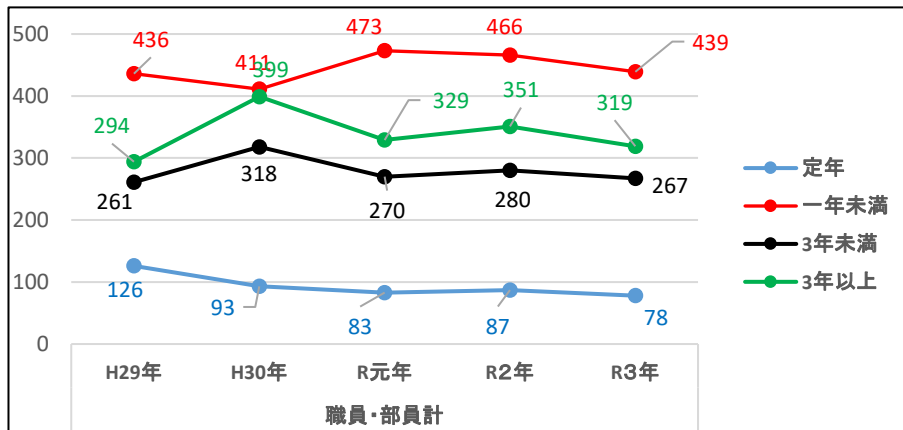
(3) 令和3年度退職状況

	職 員				部 員				職・部員合計					
	甲板	機関	その他	計	甲板	機関	その他	計	甲板	機関	その他	計	比率	
定年	35	27	0	62	11	1	4	16	46	28	4	78	6.6%	
死亡・障害	4	1	1	6	4	2	3	9	8	3	4	15	1.3%	
自己都合	一年未満	92	75	3	170	182	72	15	269	274	147	18	439	37.0%
	3年未満	82	60	7	149	68	39	11	118	150	99	18	267	22.5%
	3年以上	157	93	1	251	52	9	7	68	209	102	8	319	26.9%
会社都合・他	一年未満	6	6	0	12	8	2	2	12	14	8	2	24	2.0%
	3年未満	11	7	0	18	1	2	1	4	12	9	1	22	1.9%
	3年以上	11	5	2	18	2	1	2	5	13	6	4	23	1.9%
計														
	398	274	14	686	328	128	45	501	726	402	59	1,187	100.0%	

(4) 平成29～令和3年在籍期間対比(5年間)

(会社都合は除く)

	職員・部員計					計	%
	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年		
定年	126	93	83	87	78	467	8.1%
一年未満	436	411	473	466	439	2,225	38.5%
3年未満	261	318	270	280	267	1,396	24.2%
3年以上	294	399	329	351	319	1,692	29.3%
計	1,117	1,221	1,155	1,184	1,103	5,780	100.0%



令和3年度・退職者比率(自己都合)

- ※一年未満37%
- ※一年以上3年未満22%
- ※3年以上27%

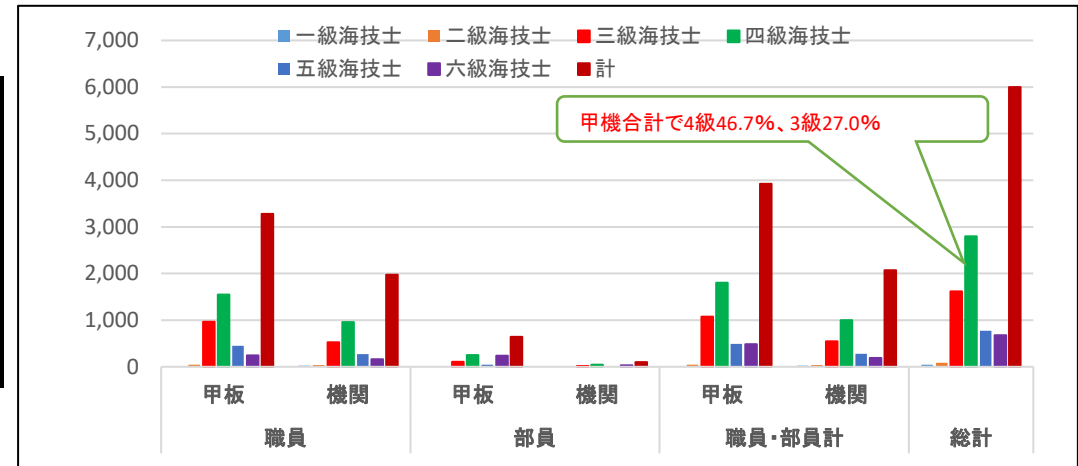
(5年間統計)

※0～3年未満での自己都合退職者割合は、5年間高止まり傾向 (62→60→64→63→64%)

### 8. 海技免状保有状況

#### ①甲・機別保有者数

	職員		部員		職員・部員計		総計	比率
	甲板	機関	甲板	機関	甲板	機関		
一級海技士	17	24	1	1	18	25	43	0.7%
二級海技士	48	35	0	0	48	35	83	1.4%
三級海技士	968	525	110	18	1,078	543	1,621	27.0%
四級海技士	1,551	955	249	46	1,800	1,001	2,801	46.7%
五級海技士	448	274	46	7	494	281	775	12.9%
六級海技士	246	161	239	28	485	189	674	11.2%
計	3,278	1,974	645	100	3,923	2,074	5,997	100.0%



#### ②年齢別保有数

##### イ)航海士

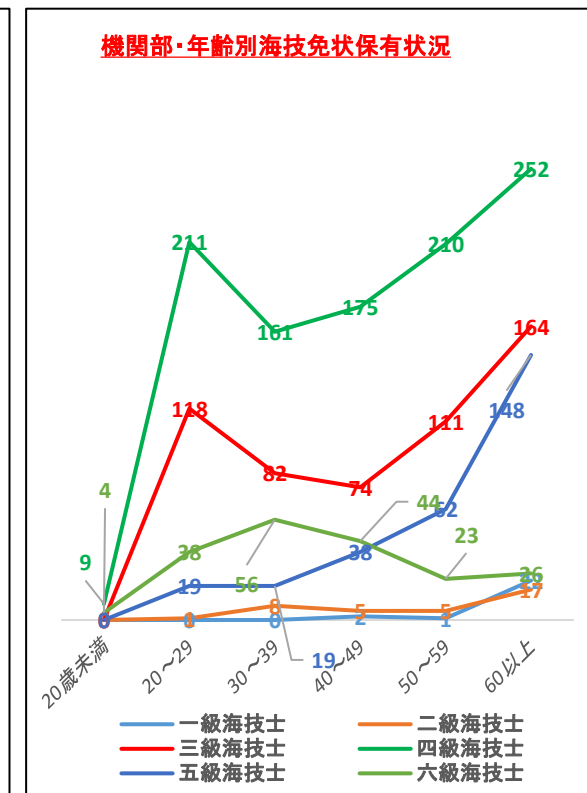
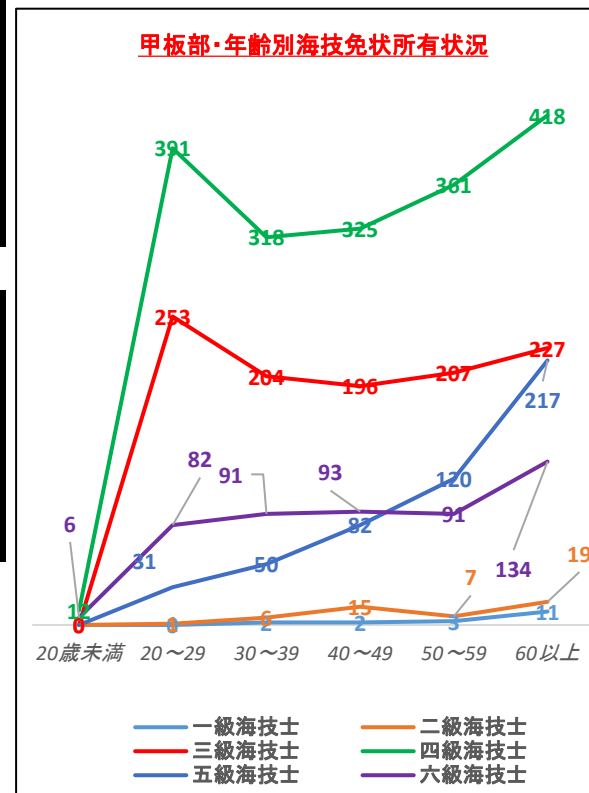
	20歳未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60以上	計
一級海技士	0	0	2	2	3	11	18
二級海技士	0	1	6	15	7	19	48
三級海技士	0	253	204	196	207	227	1,087
四級海技士	12	391	318	325	361	418	1,825
五級海技士	0	31	50	82	120	217	500
六級海技士	6	82	91	93	91	134	497
計	18	758	671	713	789	1,026	3,975

##### ロ)機関士

	20歳未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60以上	計
一級海技士	0	0	0	2	1	22	25
二級海技士	0	1	8	5	5	17	36
三級海技士	0	118	82	74	111	164	549
四級海技士	9	211	161	175	210	252	1,018
五級海技士	0	19	19	38	62	148	286
六級海技士	4	38	56	44	23	26	191
計	13	387	326	338	412	629	2,105

※甲板部・機関部とも4級、3級海技士が主流

※6級海技士の部員の所有状況は甲板497名に対し機関191名と少ない。



### 9. 船舶料理士免許保有状況

	所有	未所有	司厨員計	所有割合
乗船中	207	62	269	77.0%
下船中	111	40	151	73.5%
計	318	102	420	75.7%

※未回答、又は甲板・機関免状を記載した回答は集計除外(65名)

## 10. 船員不足の考察

## ① 船型別隻数/乗船中船員数(有効回答数)

年度	200GT未満			500GT未満			750GT未満			1000GT未満			1600GT未満			3000GT未満			3000GT以上			合計		
	隻数	員数	平均員数	隻数	員数	平均員数	隻数	員数	平均員数	隻数	員数	平均員数	隻数	員数	平均員数	隻数	員数	平均員数	隻数	員数	平均員数	隻数	員数	平均員数
29	165	575	3.5	248	1,320	5.3	164	1,101	6.7	70	620	8.9	16	158	9.9	40	443	11.1	116	1,356	11.7	819	5,573	6.8
30	159	548	3.4	270	1,438	5.3	156	1,069	6.9	69	613	8.9	14	141	10.1	35	380	10.9	110	1,272	11.6	813	5,461	6.7
元	168	577	3.4	271	1,427	5.3	146	1,013	6.9	65	582	9.0	13	133	10.2	33	353	10.7	118	1,364	11.6	814	5,449	6.7
2	135	474	3.5	252	1,333	5.3	150	1,002	6.7	63	570	9.0	14	141	10.1	31	336	10.8	115	1,365	11.9	760	5,221	6.9
3	114	394	3.5	266	1,403	5.3	149	1,008	6.8	59	523	8.9	15	143	9.5	34	369	10.9	121	1,424	11.8	758	5,264	6.9
計	741	2,568	3.5	1,307	6,921	5.3	765	5,193	6.8	326	2,908	8.9	72	716	9.9	173	1,881	10.9	580	6,781	11.7	3,964	26,968	6.8

※ 令和3年度の平均乗員数は、全体的にはほぼ例年並みだが、1,600GT未満が5年間の平均よりも下回っていた。

## ② 予備員率

年度	乗船中	下船中	計	予備員率
29	5,573	1,948	7,521	1.35
30	5,461	1,983	7,444	1.36
元	5,449	2,068	7,517	1.38
2	5,221	1,934	7,155	1.37
3	5,264	2,187	7,451	1.42
計	26,968	10,120	37,088	1.38

※予備員率は5年間平均で1.38、3年度は1.42で、平均を上回る。

## ③ 臨時・派遣船員数と比率

年度	合計 船員数	自社・ 家族 船員数	臨時・ 派遣 船員数	臨時・ 派遣 比率
29	7,521	7,185	336	4.5%
30	7,444	7,060	384	5.2%
元	7,517	7,142	375	5.0%
2	7,155	6,752	374	5.2%
3	7,451	7,060	364	4.9%
計	37,088	35,199	1,833	4.9%

※臨時・派遣船員割合は5年間平均で4.9%、3年度は4.9%で、例年大きな変動がない。

## ④ 臨時・派遣船員の職種別内訳

年度	職員 (甲)	部員 (甲)	職員 (機)	部員 (機)	計	職員 (甲機) 割合
29	120	114	89	13	336	62.2%
30	159	112	100	13	384	67.4%
元	145	113	103	14	375	66.1%
2	147	112	93	22	374	64.2%
3	144	113	87	20	364	63.5%
計	715	564	472	82	1,833	64.8%
割合	39.0%	30.8%	25.8%	4.5%	100.0%	

※臨時・派遣船員は6割以上が職員として就労、機関に限れば約8割以上。

## (考察)

## 1. 安全最小定員数と実乗船員数

船員法等を遵守する最小船員数は、航海時間16時間超の500トン未満船を例に挙げると、法定定員は、航海士2名+1名(航海当直要員)、機関士2名の計5名となり、さらに着離棧、荷役作業を考慮すると+αの員数が必要となる。今後、船員法の改正により労働時間管理の厳格化が行われることにより、本乗員数は増加して来ることが推測される。

## 2. 予備員数

令和3年度の予備員率は上表のとおり1.42(5年間平均1.38)である。年間休日110日(休暇105+乗下船5)を付与するための理想の予備員率を1.43とすると、ほぼその数字に近い数値となった。本数値が一過性のものか否かは判断が難しいが、本数値も前述の船員法改正関連で、今後、どのような数値が出てくるか注視していく必要がある。

## 3. 臨時・派遣船員

令和3年度は、364名の船員が派遣され、特に、甲・機職員への派遣が6割以上を占め、重要なポジションについている実態に変化はない。ただし、毎年調査では、派遣員数が増加していく傾向は無く、船員派遣業者数の増加や船舶管理会社の内航海運業法登録により制度上の体制は整備されて来ているが、全体の船員不足により派遣船員の登録自体が伸び悩んでいる可能性がある。

## 4. 船員不足への対応

船員の働き方改革により労働時間の管理や罰則規程が法制化され、より厳格な労働時間や休日の管理が行われることにより、船員不足の傾向がより顕著に表れることも危惧される。今後の石油等の需要と船舶とのバランスの問題、荷役労務の軽減化の問題等、今後1~2年は船員問題も新たな局面に入っていくと考察される。

## 11. 船員対策委員会からの提言

- (1) 将来的に内航タンカー船員が選ばれる職業となるためには、労働時間管理、仕事のあり方、休日の付与等について、船主、オペレータ、荷主がコンプライアンスを前提にした協力を行い、「内航タンカー船員の働き方改革」を実現しなければならない。
- (2) 特に、小型船の船員確保対策は、船主、オペレーターが協力して実施する必要がある。
- (3) ベテラン船員の退職と新人船員の早期登用のバランスを取りつつ、技術の伝承を早急に行う必要がある。
- (4) 新卒者の積極的な採用と併行して、若年船員の退職防止と業界内へのつなぎとめ対策を図る必要がある。
- (5) 女性船員の確保・活用をさらに進める必要がある。
- (6) 小型船等において高齢船員への依存傾向が続いている中、安全確保のため労務の見直しや軽減策に配慮する必要がある。
- (7) SO<sub>x</sub>規制による新燃料油の使用や暫定措置事業終了による建造方式の変更、中長期的なカーボンニュートラルへの対応等、業界環境も大きな変わり目を迎えている中、船舶の技術革新を今以上に進める必要がある。

以上